

国登録有形文化財

みなまたしりつそほうきねんかん

水俣市立蘇峰記念館 (旧淇水文庫)

きゅうきすいぶんこ



【入館料】無料
 【住所】〒867-0011 熊本県水俣市陣内1丁目1-1
 【電話番号】0966-63-0380
 【アクセス】南九州西回り自動車道水俣ICから車で3分
 【開館状況】
<https://www.city.minamata.lg.jp/kiji0033711/index.html>



市役所傍に佇む 歴史ある洋風建築

徳富蘇峰・蘆花兄弟ゆかりの資料を収蔵・展示し、収蔵資料の閲覧も行っています。(要：事前の閲覧申請)

元は昭和4(1929)年に水俣町立図書館「淇水文庫」として建てられました。館名は兄弟の父・一敬の号「淇水」からとり、開館式も一敬の命日に合わせて行われました。蘇峰は淇水文庫に多額の建設資金と蔵書を寄付し、設計にも関わったといわれています。工場が進出し発展していた故郷・水俣に対して、蘇峰は物質的な文化と精神的な文化との調和が必要だと考え、淇水文庫が精神的な文化の向上に貢献できればと願っていました。

建物は昭和58(1983)年に兄弟の功績を伝える施設「水俣市立蘇峰記念館」へ改修されます。平成9(1997)年には昭和初期の鉄筋コンクリート建築の好例として、国登録有形文化財(建造物)となりました。建物全体は簡素な外観ですが、軒周りなどに装飾が施されています。建設当初は、当時珍しかった鉄筋コンクリート建築を見物しに来る人もいたそうです。



徳富 蘇峰 (1863年-1957年)

本名は猪一郎。明治、大正、昭和にかけて、日本の言論界に影響を与えたジャーナリスト、評論家、歴史家。

19歳で私塾の大江義塾を開き、23歳で出版した『将来之日本』が評判となって上京します。その後、民友社、國民新聞社を創立し、雑誌「國民之友」や「國民新聞」を発刊しました。著作も多数あり、34年の歳月を費やして完成させた『近世日本国民史』は、全100巻に及ぶ大著となりました。

